

モノづくりのプロ集団であり続ける
一〇〇年企業を目指した取組を開始

モノづくりで感動を届けたい

低価格を競う時代に見切りをつけ

高品質・高付加価値の製品づくりを



大館市で創業86年を迎える東光鉄工株式会社。1938年に「東光製作所」として東京都亀戸で創業。創業者が大館出身だったこともあり太平洋戦争で大館に疎開した。その後は大館に根付き、1953年に合資会社東光商会、1968年に現在の東光鉄工株式会社となる。100年企業を目指し、戦略的に取り組む代表取締役社長の菅原訪順さんにお話を伺った。



東光鉄工 株式会社
代表取締役社長 菅原 訪順

〒017-0012
大館市釈迦内字稲荷山下19-1
TEL: 0186-48-3234
FAX: 0186-48-5922
https://www.toko-tekko.co.jp



HP

「鉾山育ち」ならではの
さまざまな技術を専門特化へ

東光鉄工株式会社は、各種鋼構造物の設計製作、各種機械装置やプレス金型の設計製作、建築関連などの施工・据付、保守メンテナンスや加工のほか、ドローンの設計製作・販売・教習と幅広い事業展開を行う。

秋田県北部はもともと鉾山文化が盛んな地域であったため、同社は鉾山に関する技術を開発し育った。鉾業は生産プロセスが非常に多い。鉾物を精錬するための技術や中和処理をするための設備もさることながら、土木工事や運搬の通路を作る技術も必要とされた。さまざまな分野の要望に対応していく中で、技術革新と事業拡大を続けてきたのである。



①本宮工場の敷地内に、洋上風力関連の専門工場を建設。1月から稼働を予定している。

②洋上風力発電に使われるダビットクレーン



鉾山の時代が終わると、その技術が異業種で求められるようになる。例えば自動車が普及したことによるトンネル作りでは、支保工※という技術が活かした。「当社ではそれぞれの専門分野ごとに事業部を置いて、独立採算制を採り、事業計画もそれぞれです。そうすることで各事業部が専門特化し、強みを持つことができる」と菅原さんは自社の強みを解説する。

激動の世界情勢を見据えて
モノづくりの原点に立ち戻る

2023年5月に創業85周年を迎え、目指すは100年企業。そのため、長期のビジョンと中期経営計画を作成し、戦略的に成長を目指している。戦争や米中対立激化による原材料価格やエネルギー価格の高騰、為替変動、気候変動、自然災害のリスクといった多岐にわたる経営環境の変化と影響を踏まえ、自分たちが企業として求められること、目指すべき姿とは何かを再定義した。

「これまでデフレが長く続き、低価格が求められてきましたが、切り替える必要があります。夢と希望を持ってモノづくりにチャレンジする意識を共有し、高品質・高付加価値のモノづくりによって業績を伸ばすことを目指して

います。地域への貢献や経営の安定化に向けた取組、社員とともに成長していくこと、そして売上100億円企業の実現に向けた段階的な目標を設定して、社員一丸となって取り組んでいます」。

戦略に基づいた重点施策
洋上風力など成長分野へ

重点施策のひとつが洋上風力発電事業への参入だ。洋上風力の風車に取り付ける「ダビットクレーン」を岐阜県の関ヶ原製作所と共同開発。海外製品が主流となっている市場へ挑戦する。また、治具・二次部材分野への参入も進めており、洋上風力専用の工場を建設中だ。その他、南極昭和基地でも採用されている「TOKOドーム」の防衛産業や原子力事業での需要を掘り起こし、獲得を狙う。

「秋田県のリーディングカンパニー創出応援事業でドローンの性能向上のための技術開発を行いました。貪欲に自社製品や元請け事業の比率を増やし、経営の安定化に向けて進めていきたい」と、菅原社長は力強く語ってくれた。

※支保工＝トンネル・橋梁などの土木工事や建築などにおいて、上または横からの荷重を支えるために用いる仮設構造物



自社製品「東光レスキュードローン」。
洋上風力発電分野での活用も視野に入れ開発中。



「TOKOドーム」は雨風に強く、頑丈なこと知られている。



クライアントからのオーダーに合わせ、図面を整える作業を行っている様子。